除染の計画期」が全面施行され、市の除染一通じて市民に周知する。

東北大 11年 南相馬・川内で調査

～11月、当時警戒区域に指定されていた南相馬市と川内村で、雌の成牛63頭（うち3頭が妊娠）、原発事故後に生まれた子牛13頭の計79頭を所有者の同意を得て、行政の殺処分後に解剖。骨格筋や各臓器、血液の放射性物質濃度を調べた。

このうち、親子3組の放射性セシウム137の濃度を調べたところ、母牛は骨格筋1㌔当たり平均649㍉㌔だったのに対し、子牛は同956㍉㌔だった。肝臓や腎臓など各臓器でも同様に、子牛の方が母牛よりも約1・5倍濃度が高い関係がみられた。

また、母牛とその胎児の3組では、胎児の骨格筋や各臓器の放射性セシウム濃度は、母牛の約1・2倍だった。

一方、部位ごとの1㌔当たり平均放射性セシウム濃度をみると高い順に、骨格筋（626㍉㌔）、舌（619㍉㌔）、腎臓（361㍉㌔）、心臓（311㍉㌔）、ぼうこう（210㍉㌔）、肝臓（207㍉㌔）だった。

血液は25㍉㌔で、血液の放射性セシウム濃度を調べれば、各臓器の濃度を推計できるとしている。

い」と話し

1～3号機

注水し燃料

れた水は

を除去して

水し循環さ

が建屋には

たり約40

0㌧流れ込むため汚染水は増加、東電は貯蔵タンクを追加設置してしのいでいる。

東電は約60種類の放射性物質を除去する「多核種除去設備（ALPS）」を新たに稼働させて汚染水を処理し海に放出する方針。だが、ALPSでも放射性トリチウムを取り除くことができず、処理後も1㍑当たり2千～3千㍉㌔含まれるとみられ、法令で放出が認められる1㍑当たり60㍉㌔を大きく上回る。東電は「希釈してから放出することが考えられる」としている。

2013.1.25
Fukushima
minyu
shimbun
福民新

楢葉町の仮置き場を視察する県と町の関係者

の重要性を共有してもらいたい。国の除染適正化プログラムを確実、早急に実行してほしい」と申し入れた。

また長谷川部長は今後、除染が適切に行われている

「原発輸出しないで」フィンランド女性訴え

日本企業が参加して新しい原発の建設計画が進むフィンランド西部の町から中学校教員ハンナ・ハルメンペーさん(36)が来日し、24日、県庁で記者会見した。

「地域の経済と自然を破壊する原発をフィンランドに輸出しないよう、日本の皆さんに協力してほしい」と訴えた。

建設予定地の同国西部ピュハヨキから約50㌔の町に住む3児の母。地元市民団体で副会長を務めている。

「原発ができると、北極から渡り鳥がやってくる豊かな自然が壊れてしまうのではと心配。福島では起こると思っていなかった事故が起きた。百パーセント安全な原発はない」と話した。

23日にはいわき市を訪れ、東京電力福島第1原発事故で避難生活を送る大熊、楢葉両町の人々から暮らしぶりを聞いた。30日まで日本に滞在し、東京で国会議員や反原発団体の人たちにも会うという。

使用済み燃料全搬出

浜岡1号機の廃炉作業

中部電力は24日、廃炉作業中の浜岡原発1号機（沸騰水型軽水炉、静岡県御前崎市）の燃料プールから、1994年に放射能漏れを起こした核燃料集合体1体を23日に5号機に搬出し、全ての使用済み核燃料の搬出を終えたと発表した。

60本ある燃料棒のうち1本にひび割れや傷が見つかり、作業が遅れていた。中部電は、他の燃料棒には異常はなかったとしている。

野菜18点検出なし

県は24日、8市町で栽培された野菜11品目、18点の放射性物質検査結果を発表、放射性セシウムは検出されなかった。

温暖化対策で新目標

安倍首相が指示へ

菅義偉官房長官は24日午前の記者会見で、民主党政権が「2020年までに25％減」と国際公約した温室効果ガスの削減目標をゼロベースで見直し、新たな目標を設ける方針を表明した。安倍晋三首相が25日の日本経済再生本部で、石原伸晃環境相らに目標見直しと新たな対策の検討を指示する見通しだ。

菅長官は会見で「（25％削減は）前から実現不可能だと申し上げていた。基本的に見直して、そういう（新目標をつくる）方向になる」と述べた。